

麦類技術情報No. 2

平成30年3月8日

麦類栽培者 各位

JA管農支援課
大潟村麦類生産班

麦類の生育状況と今後の管理について

平成30年産小麦は例年よりも早い雪融けとなっており、ガンによる被害も見受けられますので、今後は鳥害対策に努めていただきますようお願いいたします。また、積雪が少なく雪や雨風を直接受けた期間が長かったため、湿害傾向のほ場が目立っております。圃場によっては、雑草(スズメノテッポウ)が繁茂している圃場が見受けられますので、下記を参考に今後の管理に万全を期してください。生育調査は今月30日に予定しておりますので、結果については後ほどお知らせいたします。

1. 今後の肥培管理

まだ茎立期を迎えておりませんが、生育の回復を図るためN成分で2~3kg/10aを目安に追肥を実施してください。(硫安現物で10~15kg/10a)

特に、茎数が不足している圃場や、葉の傷みやストレスにより葉色が紫色になっている圃場については早めに追肥を実施してください。ただし、生育量の多い圃場や追肥を実施した圃場については、今後の生育や品質に影響を及ぼす可能性がありますので追肥や施肥量を控えるようにし、幼穂形成期(3月下旬~4月上旬)に追肥を実施してください。

2. 雑草対策について

「スズメノテッポウ」を中心に各圃場とも雑草の発生が見られます。

各自圃場を確認のうえ、幼穂形成期(3月下旬~4月上旬)を目途に10a当たり『ハーモニー75DF水和剤』10gを水100L(10,000倍)に溶かして散布してください。



スズメノテッポウ



スズメノカタビラ

スズメノテッポウの葉は柔らかく薄いのに対し、スズメノカタビラの葉はテッポウより堅く、厚みがある。

※スズメノテッポウについては5葉期まで。スズメノカタビラには効果はありません。

麦の草丈が伸びると雑草へ薬剤が付着しないため、十分な殺草効果が得られません。